

会議記録用紙

会議名	平成 21 年度第 2 回西宮市参画と協働の推進に関する条例評価委員会		
日時	平成 21 年 10 月 17 日 (土) 午後 2 時 ~ 4 時	場 所	市役所東館 7 階 701 会議室
出席者	委員：中川会長、黒木副会長、能島委員、川東委員、米田委員、米山委員		
	事務局：田村企画総括室長、津田参画・協働推進グループ長、武林参画・協働推進グループ主事、		
	笠原参画・協働推進グループ主事		
内 容			
<p>《式次第》</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 会長挨拶</p> <p>3. 審議事項</p> <p> 議題 傍聴に関する取扱いについて</p> <p> 議題 参画と協働のまちづくりアンケートの結果について</p> <p> 議題 参画と協働に係る今後の取り組みについて</p> <p>4. その他</p> <p>5. 事務連絡</p> <p>6. 閉会</p> <p>1. 開会</p> <p> (津田 G 長)</p> <p> 本日は、ご多忙中にもかかわらず、ご参集いただきありがとうございます。</p> <p> ただ今から、西宮市参画と協働の推進に関する条例評価委員会の第 2 回目の会議を開催いたします。本日の日程につきましては、お手元の次第のとおりとなっております。なお、本日は梶委員より欠席の届けが出ております。よろしく願いいたします。</p> <p> それでは中川会長、ご挨拶および委員会の進行をよろしく願いいたします。</p> <p>2. 会長挨拶</p> <p> (中川会長)</p> <p> 本日は、30 分ほど遅らしていただきありがとうございます。</p> <p> 実は言い訳しますと、神戸市で今年の指定管理者の選定の見直しの件数が多く手間取りました。</p>			

3. 審議事項

議題 「傍聴に関する取扱いについて」

(中川会長)

傍聴希望者はいないとのことですので、議題 は飛ばさせていただきます。
それでは、次第に沿って議事を進めていきます。

議題 「参画と協働のまちづくりアンケートの結果について」

(中川会長)

議題 「参画と協働のまちづくりアンケートの結果」について、事務局から説明させていただきます。

(津田G長)

お手元の、「平成 21 年度参画と協働のまちづくりに関する市民アンケート調査」ということで、上に未定稿と書かれていますが、これをご覧いただきたいと思います。

このアンケートにつきましては、1 ページの の 3 の「調査設計」のところにありますように、調査機関が平成 21 年度 7 月 30 日から 8 月 17 日まで実施させていただきました。

実際これはまだ未定稿で本来ならば 70~80 ページに及ぶものなのですが、これが今月末に届くかというところでしたが、調査機関に無理を言って、せっかく評価委員の皆様が来ていただくということですので、ある程度の中身でもお知らせできたらと思い、エッセンス的なものだけ出させていただきました。まだ届いたばかりですので、まともな説明はできませんが、ざくっとした形で説明させていただきます。

まずは、1 ページにあります . 調査の概要の 1. 調査の目的についてですが、この調査は、本市における参画と協働のまちづくりを推進していくため、市民の考えを把握し、今後の施策展開に係る基礎資料とすることを目的とした。としています。それだけでなく、この調査内容には、参画・協働とはどういうことを細やかに説明して、こういう条例ですよということも書きながら、皆さんに知っていただくようにして、啓発も含めた形の調査をしました。

その次の 2. 調査項目については、29 問あります。項目は (1) 回答者自身のことについて、(2) 西宮市参画と協働の推進に関する条例について、(3)「参画」について、(4)「協働」について、(5) 地域活動について、の 5 つの項目に分かれています。

3. 調査設計については、調査地域は西宮市全域で、調査対象は 20 歳以上の男女個人です。調査対象者数は 3000 人です。調査対象抽出法は系統的無作為抽出という形をとっています。

4. 発送回収状況については、発送総数は 3000 で、それに対し回収数は 1589 で、53.2%です。だいたい市民アンケートでは 50%を超えるぐらいです。今回のアンケートは質問件数や、質問の内容がややこしかった割には多くの皆さんにご回答いただけたのではないかと思います。

回答を年齢的に見てみますと、60~70 代の方の回答が多く 20 代の回答が少ないです。また、20 代でも男性の回収率は 23.1%ですが女性は 43.9%ということで、他のアンケートはどんな形か分析できていませんが、女性のほうが回答率は高いです。逆に年齢がいくと男性のほうが高く、女性のほうが低くなっている傾向がありました。

次に 2 ページをご覧ください。2 ページは回答者自身のことについてですが、回答率は女性が 58.5%、男性が 41.0%となっています。その次の(2)居住年数についてですが、ここで興味深かったのは 20 年以上の居住者がすごく多かったということです。20 代は子どもの頃から育ってそのままということだと思います。30 代は少々減りますが、40 代から 20 年以上居住する人が伸びているということで、長い年数西宮市に居住している方がおられました。

3 ページの(3)家族構成についてですが、やはり今の核家族化が象徴されるのは、42.5%が「夫婦とその未婚の子ども」といった家族構成が多かったと思っております。

それから 4 ページになりますが、問 6「あなたは、市政や地域のまちづくりについて、どのように感じておられますか。」というところで、「非常に興味がある」と「ある程度興味がある」がかなり多いです。批判的な見方からすると無難な選択肢である「ある程度興味がある」につけたという方もいらっしゃるかもしれませんが、それにしても結構興味があるという方が多かったと思います。

それから問 7 につきましては、「あなたは、自分が考えていることや問題意識を持っていることについて人と話すほうですか。」というところでも、「多くの人と話すほう」以外にも「きっかけがあれば誰とでも話すほう」や「気心の知れたひととだけ話すほう」ということで、問題意識を持っていることについては割とほかの人と話すことが多いのではないかと思います。

また、5 ページの問 9「グループで何かに取り組まなければならないとき、どのように活動することが多いですか。」の中では「中心となっている人たちに協力して活動する」、「決まったことに従って活動する」が合わせて 80%近くあり、皆さんは組織的な活動がある程度できるのではないかと感じました。

それから次は 6 ページの問 10「ふだん近所づきあいはどの程度していますか。」というところでは、「付き合いをしているが、それほど親しくはない」、「ほとんど、または全く付き合いがない」を回答している人が 65%近く占めているということが、今の世間の状況なのかなと感じました。

その次は、問 11 の「ご自身が住んでいる地域に対して、愛着や誇りは持っていますか。」というところでは、「強くもっている」、「ある程度もっている」を回答した人が 83.3%いるということで、愛着をもたれている方は多いと思いました。

その次に 7 ページになりますが、条例の認知状況ということになりますが、問 12 では「内容についてある程度知っている」、「詳しくは知らないが、聞いたことはある」が合わせて 40%強ですが、「知らない」が 58.5%ということでまだまだこれからかなと思っております。下のほうはクロスでの分析ということになっていますが、市政に「非常に興味がある」、「ある程度興味がある」という人たちから見たら、上の問 12 の表がどんな形で出されているかと言いますと、やはり「非常に興味がある」、「ある程度興味がある」と回答した人の条例の認知度はかなり高いということが傾向として考えられます。次の 8 ページの、まちづくりへ関心度別でも関心がある人たちの条例の認知度はある程度あります。

次の問 13「『市政ニュース』やホームページで参画と協働のまちづくりに関する情報などを今後も発信していくように努めますが、あなたはふだん、これらの情報媒体に目を通しておられますか」ということになると、「しっかり目を通して」、「全体に目を通す程度」、「関

心のあるものだけ目を通して」が合わせて 63.6%を占めており、市政ニュースやホームページがまだまだ情報媒体としていけるのではないかと思いました。

ただ、9 ページの性・年齢別情報媒体の閲覧頻度なりますと年齢層の高い方、とくに女性が見ている傾向が強いと思いました。

次に 10 ページですが、(2) 条例制定後に期待することの問 14「条例の制定を契機に、市民と市が共に進めるまちづくりをより一層進めていきますが、あなたは今後、条例制定後の効果として、どのようなことを期待されますか。」というところで、回答が多かったのは「市政運営の一層の透明化」で一体何をしているのか分からないという思いがあるのだと思います。それから「地域における課題の解決」の回答も高かったです。その次には、「市民の積極的なまちづくりへの参加」ということも地域の活動をしていく中でこういうこともしていかななくてはならないと市民の皆さんも思われているのかなと感じました。ただ、下のほうでクロス分析をしているのですが、条例は「内容についてはある程度知っている」、「詳しく知らないが聞いたことがある」、「知らない」と答えた方皆さんが「市政運営の一層の透明化」への思いは強いです。このほか、「内容についてある程度知っている」という方が「市民の積極的なまちづくりへの参加」を期待しているということが興味を引きました。

その次に 11 ページの 3.「参画」についてになりますが、問 15「『参画』という言葉、今まで見聞きされたことはありますか。」では、「内容についてある程度知っている」、「詳しく知らないが、見聞きしたことはある」が合わせて 71.2%ということである程度皆さんは参画という言葉を知っていると思いました。その下のほうにあります、まちづくりへの関心度別での「参画」という言葉の認知度の表では、まちづくりへ「非常に関心がある」、「ある程度関心がある」という方は、やはり参画という言葉を知っておられます。それでも、「あまり関心がない」という方もある程度参画という言葉を知っておられました。

その次に 12 ページになるのですが、問 16「意見提出手続（パブリックコメント）、附属機関等、政策公募手続といった主な参画の手法について、それぞれ参加状況などをお答えください。」という質問で、参加したくない理由という質問も設けたのですが、やはり「参加する時間がない」という回答が多く、それから「難しそうなイメージがあり、参加しにくい」ということが結構挙げられているということは感じました。

次に 14 ページになりますが、(2)「参画」を広めるために必要なことで、問 17「今後、『参画』を広めていくために必要なことはどのようなことだと思いますか。」ということで、多くの皆さんが挙げられているのが、「分かりやすい広報の充実」ということで、これは市のほうで今後の課題になっていくと思います。それから「市民の市政への参画意識の向上」、「参画した内容についての情報公開」が挙げられます。情報公開についてはこれからもっともっていかないといけない、もっと分かりやすくしていかないといけないと思います。それによって市政の参画意識の向上を図れるのではないかと思いました。

その次は 15 ページになりますが、4.「協働」についてです。問 18「『協働』という言葉、今まで見聞きされたことがありますか。」ということでは、先程の参画と比べますと、「内容についてある程度知っている」が 11.7%を占めています。これは参画だと 19.5%で参画に比べ協働はまだ認識されていないと思います。あるいは「詳しく知らないが、見聞きしたことがある」

が 35.7%となっていますが、参画ではこれが 51.7%ということになっており、「知らない」が 49.7%ですが、参画では 29.8%でやはりまだ、参画に比べ協働の認知度が少ないということがわかりました。

その次は 16 ページになります。問 19「これまでも、市や団体、市民がそれぞれ協力して上記のような取り組みを進めていますが、あなたをご存知でしたか。」という中では、「市と一緒に活動を行っている、もしくは活動した事がある」、「市と協力して活動する事は知っているが、参加したことはない」が合わせて 32.2%ということで、まだ認知度が高くないと思います。それ以上に、まちづくり活動自体を知らないというのが 27.5%もあるということで、これはかなり問題があると思います。

その次に 17 ページになりますけれども、問 20「市と市民が協力したまちづくり活動について、どのように感じておられますか。」では、「進んでいる」、「ある程度進んでいる」合わせて約 55%はある程度進んでいると考えられているということです。ただ、下にありますように、活動を一緒にしたことがある方たちのコメントがそういったことかなと思います。

その次は 18 ページになりますが問 21「問 20 で進んでいないと思われる理由はどのようなことですか。」を見てみますと、上から 2 番目の「市が、協働のまちづくりについて十分、市民に知らせていないから」というところが 53.5%、それから、「市民が、市政に関心が低く、市政への参画が不十分だから」が 44.6%、また、「市民が自治会などの地域活動に関心がいないため」が 29.7%ということが理由として挙げられています。

その次に 19 ページになりますけど、(3)「協働」に求められること問 22「市民と市が協力して事業を進めるにあたって、どのような姿勢で進めるのが望ましいですか。」という点では、「市民が積極的に進め、市は市民の活動を支援する」、「市民と市が一緒になって進める」合わせて 56%になっております。その次に、「市が積極的に進め、市民は市に協力する」、「市が積極的に進め、市民は特に関わらなくてよい」が続きます。「市が積極的に進め、市民は特に関わらなくてもよい」の回答率は少ないのですが、下のクロスの表を見ていきますと、まちづくりに「あまり関心が無い」、「わからない」という方は、「市が積極的に進め、市民は特に関わらなくてもよい」が多くなっています。だから市だけがまちづくりをして、自分たちは関わらなくてもいいという考えをされているのだと思います。ただ、20 ページになりますが、違ったクロスの表では、先ほどの質問でグループ活動の取り組み姿勢について「決まったことに従って活動する」という方については「市民はあまり関わらなくていい」というのが 32.9%あり、なったことについては従う方々にはそういう傾向があると感じました。

それから、問 23「市と市民とが協力して事業を進めるにあたって、市側からできることはどのようなことだと思われませんか。」の中では、「市民のニーズや地域の課題を把握すること」が 50%、「市民にまちづくり活動に関する情報を分かりやすく提供すること」が 48.9%ということで、そういうことを知らせていかないと地域活動をしないのではないかと皆さんが思われているのではないかと考えます。また、「市民がまちづくり活動に参加できる機会や場を提供すること」が 29.3%で、こういうこともやはり情報提供に入るのかなと思いました。

その次は 22 ページになりますが、問 24「市民と市が協力して事業を進めるにあたって、市民側からできることはどのようなことだと思われませんか。」では、「市政や地域活動の情報を積

極的に収集すること」、「地域活動に積極的に参加し、自主的に地域づくりに取り組むこと」、「近所でのふだんからのつきあいなど、人間関係の形成に努めること」、「協力しやすいよう、活動の運営状況などを公開すること」の4つの回答が多かったことに関心を持ちました。

それから今度は23ページの5.地域活動についての(1)地域活動への参加状況の問25「最近1年間で、自治会やボランティア活動などの地域活動にどのくらい参加されましたか。」というところでは、「ほぼ毎日」、「週に1階以上」、「月に1回以上」、「数ヶ月～半年に1回程度」、「1年に1回程度」が結構少ないなと思います。「ここ1年は参加していない」、「参加したことがない」が高い割合になっています。

次に25ページになりますが、問26「具体的に、どのような形で活動に参加されていますか。」では、「自治会の活動」がかなり多く、それから「ボランティアやNPOの活動」、「PTAや青少年育成などの活動」が主に挙げられます。

その次は26ページになりますが、問27「今後、地域活動に参加していくことについて、どのようにお考えですか。」については、「可能なかぎり参加していきたい」、「内容や条件によっては参加したい」が合わせて約50%を占めており、あとは「あまり参加したくない」、「参加したくない」となっております。

次に27ページの問28「問27で参加できない、または参加したくない理由はどのようなものですか。」では、「参加する時間がないから」は多くの方が挙げられており、それから「きっかけや情報がないから」、「体力・健康に不安があるから」、「興味のもてる活動がないから」も挙げられています。

以上が、ざくっとした説明です。ただ、これはまだ未完成ですので、これができればもう少し詳しい分析もできると思います。以上です。

(中川会長)

ありがとうございました。内容的に大変多岐にわたる調査でしたが、ご意見、ご感想等はいかがでしょうか。

(黒木副会長)

前も言っていた、パブリックコメントについてですが、市民にとってパブリックコメントはどういうものか、その意見がどのように活用されるか、市民に広く知れ渡っていないのではないかという気がします。また後で話しますが、市がどのようにパブリックコメントを活用するか指針を市民に示さないと、参画という形でのパブリックコメントとしていただけないな、と思います。

(中川会長)

それはこの調査のことではなくてですか。

(黒木副会長)

いえ、パブリックコメント自体を知らなかったら「参加したいとは思わない」とか「知って

いるが参加したことはない」などのこの辺の内容ですよね。政策公募手続等もそうですがそのもの自体の内容が市民に知れ渡っていないから、参画への関心が...と思ったのです。自分たちが言った意見が反映されればもっと参画したいという意見が出るかもしれません。

(能島委員)

私はこのアンケートの結果を見て3点ほど意見があります。

まず、1点目20代男性の回答率の低さについてどういう文脈の中で解釈するかということです。20代において市政の関心が低いです。実際ではもっと低いのではないかと思います。要は回答率が20代で34.6%で約65%の人たちが回答していないということになります。おそらく回答しない人のほとんどは市政について全く関心がないから回答していないと思うのです。そう考えたら実際関心のない層は20代においては非常に多いのではないかなと思いました。

若干このことに連関することですが、世代ごとの投票率もこの数字と似通った傾向があると思ったりするのですが、いずれにせよ若年者の投票率が低いという問題も同じことから起因しているのかなと思っています。

2点目は、20、30代の若年層が地域活動に参加せず、あるいは市政に関心がないことの背景の中に、時間がないということが正直なところだろうと思います。特に男性の20代は労働時間が多く、地域の活動に力を入れることができなくて休日は体力を回復するのに精一杯だという若者は私の周りにはごろごろいますので、そういうことも1つの背景かなと思います。要は20代の若者の働き方や労働環境が地域活動に影響があるのではないかなと思います。

3点目は、市民からのいろんな話の中で、例えば市に情報公開を求めるとか分かりやすい広報を求めるなどの要望や理由みたいなところが協働の進んでいない理由に挙げられると思うのです。例えば市が参画と協働について知らせていないとか挙げられていると思うのですが、私はこの回答結果と問13の市政ニュースの閲覧状況の回答とのクロス集計をすれば面白い結果が出る気がしていて、要は情報公開や分かりやすい広報を求めている人達の中でどれだけ市政ニュースを読んでいる人達がいるのか。別の言い方をすれば、市政ニュースをきっちり読んでいる人達は、必ずしも分かりやすい広報を望んでいる比率がそうでない人達に比べ低いのではないかなと思っています。もうちょっと端的に話すと、市政ニュースについては、市政ニュースを分かりやすくしても、情報を知りたくない層は知ろうとしないという結論に至ると思います。こういう会議でこういうことをいうと批判を受けるのですが、全ての市民に情報を伝えるということはできないということを前提として考えたら、分かりやすく情報を伝えることはそんなに重要ではないと思っています。インターネットが普及した時代で、積極的に情報を得ようとすれば情報はある程度手に入ります。関心を持たない人に広報は意味がありません。

それよりも、関心を待たない人にどう関心を持たせるかに力点を置くこと課題だと思います。

(川東委員)

年代によって関心は別々だと思います。20代の関心は少ないということは20代の関心がいくことが少ないということですよ。20代の関心があることを出せば、20代の関心を集めるかもしれません。今の西宮市の大体の活動を見ると高齢者か子どもで真ん中が抜けている気がし

ます。特に西宮市は通勤族が多く、寮や社宅も多いので、働き手は西宮市に寝に帰っているの
で市政に関心がないと思います。若者の休日での関心はスポーツクラブ 21 で運動している所に
顔を出す程度だと思うので、西宮市は学生、子育て、高齢者の大きく 3 つに分けて関心の持つ
ていくところを示すことが課題だと思います。

(米田委員)

アンケートの結果を見て、意外と数字がいいことに驚きました。しかし、アンケートでは回
答する人は知らないことを恥ずかしがるので、良いように書きます。素直に評価できないと感
じました。

自分がサラリーマンの時代には市のことには関心がありませんでした。ごみ出しや子どもの
ことには少し関心がありました。

それよりも明日会社でどうするかを考えていました。基本的には、市政や家のことは妻任せ
でした。

今は自治会活動をしています。どのような人が活動をしているか。PTA では子どもを軸に
した大人のつながりができています。子ども会は活発です。もう 1 つは高齢者です。私の様な
年金生活者は、時間的にゆとりがあるから、依頼があれば、例えば子ども見守り隊にしても、
わがまちクリーン大作戦にしても、できます。ただ、自治会に入っていくときに自分から入る
というのは、やりづらいものなので、地域の活動には後ろから背中を押してもらって私でよい
のかと思いつながりながら入ることが大半でしょうね。きっかけづくりをすれば、時間に余裕のある人
は参画・協働に興味を持ち、入っていくと思います。だから現役サラリーマンの参加率が低く
なるのは致し方ないことでしょう。

それから分かりやすい広報については、確かにおっしゃるように、どれだけ易しくしても見
る意思のない人は知らんということになるのでしょう。ただ、私が見てもちょっと興味が湧か
ないところもありますし、分からないところもあります。はっきり申しまして、兵庫県が出し
ているニュースと西宮市が出しているニュースを見た場合に、身近なニュースということで兵
庫県より西宮市のニュースを見ます。兵庫県は範囲が広すぎて身近に感じません。したがって
西宮市の市政ニュースの使命は大きいなと思います。期待しています。

(米山委員)

アンケートの回収率が 50%もあり、驚きました。参画・協働について知っている方が多くて
びっくりしました。私自身は参画・協働についてある程度聞いていたのですが、詳しいところ
では分からない点もあったので、このアンケートを見ていてすごいなと思いました。

能島委員もおっしゃっていたのですが、若年層、20 代の人に関心が低いのは市、県、国とな
ると若者は難しいしややこしいし、ということになるのではないかと思います。市政への関心
のなさ、20 代の人が見ない、聞かない方が多いのかなというのが率直な感想なのですが、
若年層も自分の身に降りかかれば関心がいくと思います。だから年代別の広報の仕方がある
と思います。

このアンケートで面白いなと思ったのは問 13 の市政ニュースのところ、私は結構しっかり

市政ニュースを見ているのですが、私の周りには子育て世代の人で市政ニュースを見ているという意見は意外と結構聞きます。しかし20代30代の若い父親では見ない人が結構多いです。やはり自分の身近な問題として捉えられる情報というのは吸収すると思うのですが、県とか市というふうになくなっていくと身近に感じないので関心が低いと思います。

(中川会長)

それでは、議題「参画と協働のまちづくりアンケートの結果」については、未確定のものなので最終の報告が出る時に、各委員にいただけると考えておいたらよろしいですね。

(津田G長)

そういたします。データはかなり膨大なものになりますが、お渡ししたいと思います。

(中川会長)

私の個人的な意見を言わせていただきます。

データの的には高い数値が出ています。群を抜いて高いと思います。西宮は市民意識の高いまちだと思います。こことよく似ているのは豊中市ですが、豊中でもこのような高い数値はできません。広報誌でも毎月ちゃんと見ているのは5%ぐらいです。「関心がある」、「時々見ている」を合わせても、15、6%あればいいところです。それだけでも大分違います。

それともう1つ特徴があるなと思ったのは、定着・定住性の高い人ほど、能動性、関心の度合いも高くなるということです。これだけは明確です。確実に40代から定着・定住住民が増えていって、その人たちが支えているというのははっきりしていますね。そういう点では30代の人分岐点になり、このまちを捨てて大阪や神戸などに住むか西宮に住み続けるか。つまり、30代人は参画・協働のパートナーとしてはリスクが高いです。40代にかかるころからはっきりしていくので、その辺をどう政策的に手を打つか、呼びかけていくかでしょうね。

それと、どなたがおっしゃったけれども関心の高さは能動性と比例しているのだから「広報誌を分かりやすくする」というのは設問のミスだと思います。これでは広報がわかりにくい広報でしょと言っているように聞こえます。広報誌全部が悪いのではなくて行政は個別に、ターゲット別にいろんな連絡や通知を送っています。あれも全部広報なのです。そう考えたらものすごくたくさん広報しています。にもかかわらず、関心のない人は見ない。見ない理由を「分からないから」、「分かりにくいから」といいますが、自分も理解しようという気がないからということも手前にあるのも事実です。それはバイアスがかかっているのだから政策的に見るときは要注意ですね。また「時間が少ないから」という理由は、時間は作るものであって追われるものではありません。出来た時間を地域の活動に割く気がないだけではないでしょうか。その理由は「関心がない」、「魅力がない」ということになりませんが、それが自分の生活に直結しているというメッセージがないということです。だから、「あなたの生活に直結しているのですよ」というメッセージを送るのが正しいのではないですか。そこが見えないと思います。

参画・協働という言葉を知っているのは11%もあります。普通なら5%あればいいです。市民的パワーを持っているまちだと思いました。

議題 「参画と協働に係る今後の取り組みについて」

(中川会長)

では、次に議題 「参画と協働に係る今後の取り組み」について、事務局から説明していただきます。

(津田G長)

議題 「参画と協働に係る今後の取り組み」について、全庁的な取り組みは前回お伝えしました。今後において参画・協働推進Gとしては、市民向け並びに職員向けに様々な啓発事業を展開いたします。

まず、1つ目として、「西宮タウンミーティング」を実施いたします。この事業は、局長級職員が地域に直接出向き、市の財政状況などを説明するとともに、今回は初めて開催するものですので、各参加団体から地域に対する課題等を報告いただき、意見交換などを通じて地域と行政の意思疎通を図っていくことを目的としたものです。テーマは特に設定はしていません。この「西宮タウンミーティング」は、10月26日(月)より、市内9地域で開催されます。

続きまして、2つ目として、「大学生との懇談会」を予定しており、11月4日(水)には甲南大学西宮キャンパス、11月18日(水)には関西学院大学、11月26日(木)には武庫川女子大学の学生の皆さんと、ある程度テーマを設定した上で、若い人たちの意見をいただいて西宮のまちづくりについて話し合っていきます。

3つ目としては、「にしのみやまちづくりフォーラム」の開催です。お手元にチラシがございますのでご覧ください。

これは、参画と協働の推進に関する条例を理解するというよりも、「まちづくりはみんなで作っていくんだ!」という気持ちになってもらう意識付けのために企画したものです。基調講演は中川会長に「まちづくりは市民が主役」というテーマで1時間の講演、そして協働への意識が低いということで、皆様ご存知の「にしのみや市民まつり実行委員会」と「学文中学の安全管理ボランティア」の方々に協働事業の事例報告をしていただきます。それから、芸術の秋ということで、地元オーケストラに所属している市職員がおりますので、弦楽四重奏による演奏を4曲ほどお聞きいただけたらと考えております。

次に、職員に対しての取り組みですが、1月下旬から2月上旬にかけて、「市民と共に進めるまちづくり」という内容の基礎研修及び2月中旬には「実務研修」を行っていく予定です。

このほか、「アダプト・プログラム」という道路や公園、河川などを地域の方々が里親になっていただき、わが子のように大切に維持管理していただき、まちづくりに協力していただく制度の構築に向けて、土木局・環境局の関係課と勉強会を行っていく予定です。そして、モデル事業などをして活動を広げていければと考えております。

取り組みについての説明は以上です。

(中川会長)

ありがとうございます。今のご説明についてご質問・ご意見はございますか。

(米山委員)

大学生との懇談会はいいと思います。参画・協働を若い世代に伝えるのはいいことです。私が大学生のときにこういう機会があったら参加したかったと思います。

先程も20代、30代は関心が低いという話でしたが、そういう人々の意見を吸い上げていき、40代、50代の人々も行政との繋ぎ役として巻き込んで、全部の世代が参画・協働を行っていけば、それが理想だと思うので、西宮タウンミーティングにしても大学生との懇談会にしてもいい取り組みだと思います。

(米田委員)

大学生の懇談会については、このような発想があるのだなと思いました。ただ、大学生は西宮市に必ずしも定住するとは限りませんが、1つのきっかけづくりになればと思います。しかし大学生は他府県に散ってしまうので、一抹の不安はあります。

それからアダプト・プログラムについては、私も近くの川を清掃したいと望んでいます。ただ自分でごそごと川に入って問題を起こすわけにはいかないので入っていないのですが、その地域の自治会だけではなく、広くまちをきれいにしようという運動ならば喜んで参加したいです。アダプト・プログラムは良いアイデアだと思います。

(川東委員)

アダプト・プログラムについて、私の住まいは武庫川のすぐ近くなので、「わがまちクリーン大作戦」で月1回、自治会も毎月、老人会も自分の地域でそれぞれ清掃活動をしています。それをいかにうまくつなげていくかが問題だと思います。

もう1つタウンミーティングについては、タウンミーティングもそうなのですが、出席者の皆さんは地域ですごく活動されています。ただ、自分の活動するところは見えているのですが活動の横のつながりをどうもっていくかがなかなか大変です。例えば、私は社会福祉協議会とかもみんな関わっていて、社会福祉協議会でやりながらここの活動を一緒に取り組んでいこうということをする、「それは補助金が違う」などと言われます。老人だけではできない、若者だけではできないということならば、横のつながりを柔軟にすればいいと思っています。また、タウンミーティングにこんなに多くの人があれば内容はまとまるのでしょうか。

あと学生さんの場合は、声をかけたら来てくださるので、今トライやるウィークで中学生がやっているように、若者のボランティア精神を育てていくためには、大学生と一緒に交流しながら、というのをやれば、ボランティアをやっていくのは望ましいですし、社会人についても、企業がボランティアを認めてくれればいいと思います。

(能島委員)

大学生との懇談会は良い試みだと思っています。ただ、この懇談会の狙いをどう設定するかが問題です。例えば、若者の発想をまちづくりに生かした上で、若者をまちづくりや地域活動に参画させることが狙いならば、若者に普通に話を聞くだけでは何のヒントにもならないだろうと思っています。とくにこのような懇談会に来る若者は比較的手なずけられた若者が多い

ですから、その場にふさわしいと思われるような、一般的に言われている答えしか言わない学生だと思います。それは、おそらく新聞に載っているような話しか言わなくて、それを実際にやったところで、他の若者の共感を全く得られない結果に終わると思います。

ただ、そのために何が必要かという点、例えばマーケティング手法の中で、フォーカス・グループというような、特定のマーケット層に対しての集中的なヒアリング方法がありますが、単に話を聞くだけでなく、対象者が本当にどういったことを求めている、どういったことを感じているのか深く掘り下げることができるような、ファシリテーターを配置しなければ、あまり表面的な話を聞くだけでは意味がないと感じています。ただ、実際に若者たちが求めているものを引き出して、それをまちづくりに生かせれば西宮市内の大学生、若者が地域の活動に参加していくきっかけになる可能性はあります。確かに西宮市は県外、市外からの流入者は多いですが、一方では、他の地域から一定期間下宿している若者たちが西宮市に住むと、私の知る範囲では比較的その後も西宮市に住みたくなくなっている子が多いと思います。だから若者を西宮市に定着させる試みは有効だと思います。それで、先程もおっしゃられていましたが、若者は社会的な活動に関心がないというわけではなく、社会活動や地域の活動に参画するきっかけが十分になく、要は食わず嫌いな部分がたくさんあると思います。そういった若者が地域活動に参画することは大きな力になるだろうと思います。私は懇談会が本当に若者の思いを聞き出すような場になればいいというふうに思っています。

もう一つアダプト・プログラムについては、今はどういう計画で行うか検討中ということですが、いわゆる自治会等で行われている地域清掃活動とどう異なるのかということについてもっと先鋭化して考えないと、同じ結果になると思っています。要は自分たちで管理する道路なり河川、自分たちのものだということがきちり認識できるような仕掛け、仕組みをうまく生かさないといけないと思います。それはある意味アダプト・プログラムにどう動機を設定するかにかかっていると思います。

もう一つ若者関係の話で、清掃活動は若者では密かなブームとなっていて、例えば渋谷では「グリーンバード」というNPOがあり、大阪では「スマイルスタイル」という団体が活動していますけども、深夜や早朝で比較のおしゃれなイメージでゴミ拾い活動をするのが密かなブームになっています。それはゴミ拾いをした後に、皆で話をしたり、その後食事をしたりするというインセンティブなプログラムがついていて、かつそれがお洒落だという、例えばゴミ袋がカラフルであるなどの趣向を凝らしていて、単にゴミ拾いとか地域清掃活動ということだけではなく、そこに何らかの面白さや楽しみが付加されるようなプログラムは若者にとっては面白いのかなと思います。

(黒木副会長)

大学生との懇談会については、若者の意見を聞くということですが、若者が求めるまちづくりとある程度の年齢の方々が求めるまちづくりの利害が反するときがあります。例えば若者は夜遅くまで開いているコンビニなど便利なまちを求めます。しかし高齢者にとって求めていないまちになります。その辺のことについて、若い人がいまだどんなまちを求めているのか気になります。

自分のことに置き換えてみて、私は34歳までフルタイムで働いていましたが、まちづくりに関心がありませんでした。子どもができて、仕事をやめて初めて関心が湧くのが普通でないかなと思いました。

アダプト・プログラムについては、各地域に美化活動は既にあります。甲子園一番町にある公園に関しては自治会や公園課と話し合っ、自治会が公園の設計をしていて管理されていると聞いています。これはモデルケースとしていいかもしれません。市内にはたくさんそういうところはあります。若草町でも年2回甲子園が始まる前には町内できれいにしています。

(中川会長)

ありがとうございます。大学生との懇談会については、学生が西宮市に定着・定住することも期待するところまで構想していいのではないかなと言う話がありましたよね。それと4年経ったら出て行くのは仕方ありませんが、まちづくりの主体者である「市民」には在住、在勤、在学まで入っていますよね。そうすると大学生も市民なのだということを知らせる働きかけを大学にしないとイケませんね。

それから、卒業しても次々と懇談会を行って大学から参加者を出してもらおう仕組みを作ったら伝統になるのではないですか。そうしたら後輩に教え続けていくことができます。だから単発ではなくずっとやり続けたいとイケないです。

タウンミーティングについては、出席団体以外の団体、団体に所属していない市民はどこでものを言ったらよいのですか。フリーに発言できるのですか。

(津田G長)

これらの団体以外は参加できません。今回は9団体に参加をお願いしましたが、ずっと9団体だけに参加をお願いするという体制ではなく、今後は、例えばNPOや、テーマを設定してそのテーマに関わる方々に集めてもらい開催するかも知れません。だから1回試しにこういう形でやっていこうということです。そして回を追うごとに手を加えていったり、参加される皆様のご意見、また今回10月10日号の市政ニュースの1面に載ったのですが、市民の皆さんの反響もあって「なぜ自分も出られないのか」という意見もありまして、やはりそういうニーズというものも踏まえながら、変わっていく要素のあるもので、その第1回目が今回のような形であると考えております。

(中川会長)

一番心配なのは、タウンミーティングなどでよく見受ける、延々と自己主張しておられるタイプの方々です。その方々もかつての企業エリートだった方などが多いのですが、思考タイプがややもすると男尊女卑で、男女共同参画などの意識がない、という人も多いのです。

それと政治的な自己主張を強くする人も出てくるかもしれませんが、タウンミーティングの場合では思いのほかそのような人は出てきません。だから市民の民主性を信じてよい時期が来ていると思います。

(川東委員)

タウンミーティングでは参加する団体はどのように決めたのですか。

(津田G長)

総合計画の策定に参加した団体に出席をお願いしています。

(能島委員)

参画と協働の条例ができて最初のタウンミーティングですよね。タウンミーティングで出席できる団体が決まっているのはイメージを悪くしたと思います。他の団体は排除されたという認識ですから、あまり大きいPRは逆効果になると思います。

(津田G長)

参加団体以外からの一般の参加者は傍聴ということになります。実際今回の西宮タウンミーティングのやり方が果たしていいのかというと、基本的にはこのようなやり方かなと認識しているのですが、内容的に、他の団体や市民という形もあります。

市としてはなぜこれくらいの人数で絞ったかということ、だいたい20名ぐらいでの開催でないと皆さんが発言できなくて、意見の集約もできないという理由からです。開催したら様々な反省点、意見等あると思うのでそれは改善しつつ行っていきます。

本来なら5~6月に開催予定でしたが、新型インフルエンザの影響で延期になっていましたが、今回開催されることとなりました。

(能島委員)

市政への関心がある市民がそれなりに一定数いることを前提にすると、今回のタウンミーティングが広く宣伝されると、かつてから市に参画して意見を言ってきた9団体が今回のタウンミーティングに参加するとのことですが、これでは参画と協働を条例化しても昔のままかと思われると思います。新しい人たちがそう捉えると、新しい人の参画と協働が阻害される危険性をはらんでいると思います。ですので、私はタウンミーティングのことはあまり表に出さないほうがいいと思います。

(中川会長)

それと、西宮市では地域ブロックごとに総合型の住民自治の協議体を作っていこうという方向に舵をきっていませんよね。もしそういう方向に舵をきっていこうと政策方針の決定ができるのなら、タウンミーティングにはこの団体だけではなく、NPOなど他の団体や一般市民もみんな入っていきます。そして地域ブロックごとに分かれて、地域課題や行政と市民の役割をどうするかということ議論できるようになり、急進的に進めることができると思います。しかし今のままでは、「ご注文、ご要望承りました」で終わらないかなという気はします。

(津田G長)

今は参加していただく方の報告を受けているのですが、参加していただく方にはタウンミーティングの趣旨をきちっと伝えています。ただ、参加していただく方の中にはタウンミーティングがどういうものか、いまいち理解していない方もありまして、説明をしてタウンミーティングが形になるようにしていかなければならないと思います。

タウンミーティングについては、公表していく予定なので、言いつばなしということにならないようにしていきます。ただ、皆さんがおっしゃっていたように、これらの9団体だけ、ということではありません。ただ、今回については、このような形で開催しますが、進展させていこうと思っております。

(黒木副会長)

「(仮称)市民参画条例」策定委員会で条例を作るときに、団体に所属している人は参画も協働も積極的にしているのですが、団体に所属していない人をどう参画や協働に加えていくかが課題だと話されていまして。団体に所属していない人の意見を取り入れていく手法をもっと考えないと参画・協働の裾野は広がらないと思います。団体に所属していない人を参画・協働にどのように関わらせるかが大事です。

(津田G長)

参画・協働推進Gは課長を含めて3人のみという体制ですので、今回はタウンミーティングという形でやっていきますが、別の局では「まちづくり塾」などまちづくりについての講座等を発信しています。このようにどんどん参画・協働によるまちづくりを広めないといけないと思っています。

参画・協働推進Gでは今後についてこのような形で行うことになりましたが、全庁的に協議していく必要はあります。このことは今後進めるべき課題であると思います。

(中川会長)

委員からの意見を参考にしてください。

4. その他

(中川会長)

その他ということで、この機会でおきたいことはありますか。

(黒木副会長)

「西宮市立幼稚園教育振興プラン」の素案に対して、教育委員会がパブリックコメントを市民に求めましたが、そのやり方が非常に閉鎖的だと思いました。募集期間が8月10日から9月10日という夏休み期間であり、地域で話し合う時間の余裕もなく、地域説明会も連合自治会が依頼して後、初めて8月下旬に開催されました。

市は、何のためパブリックコメントを行い、それをどのように活用するおつもりなのでしょう

うか。参画と協働の推進政策が各部署にいきわたっていないのではありませんか。市としての政策をしっかりと各部署に伝えていただきたい。

聴く気のないパブリックコメントならすべきではないと思います。パブリックコメントが市政に反映されているということが目に見えないといけません。意見を募集して、市政に生かしますというものがなければ、(パブリックコメントが反映されないと)市民の市政への関心はなくなっていきます。意見が反映されていることが目に見えないと、参画・協働は進んでいきなないと思います。

(中川会長)

行政から何か補足する意見はございませんか。

(津田G長)

この前に黒木副会長からそのような話をちらっと聞きまして、もしかして必要かと思い、たった今プランを配らせてもらいました。

内容は市立幼稚園のあり方についての適正配置、適正規模に向けた新たな枠組みを再構築するというところで幼稚園教育の振興に努めるという考え方です。具体的にどのようなことをやっていくのかというと、子育て支援や保育実践の研究・開発などを推進する「幼児教育センター」としての機能を有する市立幼稚園の整備を推進したり、幼稚園の現状の幼児数を確保しつつ、整備を行い、あるいは公私間格差を解消したり、市立幼稚園を統廃合し、廃園した幼稚園は保育所へ転用したりなど、そういった内容が教育振興プランに盛り込まれています。

実際、教育委員会に聞くと、人数は1万5千を超えています。意見となるともっと数はあります。これはいまだかつてない数です。現在は集計中で、まだまだ公表できる段階ではありません。今までのパブリックコメントの件数は多くて400件くらいです。このパブリックコメントをどう取り扱っていくかが問題です。

いまは集計がすすんでいないのではっきり言えませんが、これだけ意見が出て形だけのパブリックコメントということにならないと思います。議会でもこれだけ意見が出てきたというのは把握されていて、おかしな形になっていくとそういうところでも問題が出てくるでしょう。まだ、全体が見えていなくて、所管と話をしている段階です。

(黒木副会長)

せっかくパブリックコメントが行われるのなら、素案について市民からよく理解してもらった上で意見の募集をしてほしかったです。8月10日から市政ニュースに掲載されましたが、ホームページのアップも同じ時期でした。その日にいきなり募集するというのは、本当に市民の意見を聞くという態度でしょうか。やはり1ヶ月ぐらい前にこういうパブリックコメントを募集すると公表して、市民に対する説明会を開いて市民の十分な理解を得てから募集するべきだと思います。

(中川会長)

募集期間は8月10日までですか。

(黒木副会長)

8月10日から9月10日までです。8月10日号の市政ニュースに掲載され、市政ニュースには8月10日から意見を募集するという、素案の設置場所、HPにも掲載されていることが掲載されていました。素案が出てから、読み込んで意見を出す期間がすごく短かったです。期間が短くて作為的なものを感じます。

(田村室長)

ただ幼稚園の件だけではなく、市でパブリックコメントを募集するときは、今はだいたいそういう形になっています。どういうやり方でやっていくのかを含めて検証しないといけないと思います。

(黒木副会長)

パブリックコメントを募集する際には1ヶ月前には資料を公開してから募集をかけていただかないと考える時間がありません。

(能島委員)

要は募集期間を2ヶ月にするということですか。

(黒木副会長)

募集期間は1ヶ月でいいです。ただ、こういうものが出ますといきなり8月10日に言われてもすぐには意見を出せません。

(米山委員)

素案を取りに行ったり、見たりする時間が必要だと思います。

(能島委員)

いえ、要は締め切りが10月10日だったらいいということですね。

(米山委員)

結局はそういうことでしょうね。

(黒木副会長)

それはそうですね。

また、先程言ったプランの基になった「西宮市立幼稚園将来構想検討委員会」議事録の公文書公開請求を8月25日に行いましたが、通知が来たのが9月7日でした。議事録を手に入れたのは、パブリックコメント期間締め切り日でした。公開決定までの日数がかかりすぎだと思います。

(中川会長)

期間が1ヶ月なのは一般的には多数派だと思います。

(黒木副会長)

期間が1ヶ月なのはかまいません。募集の予告とプラン案の情報提供をしてほしいです。

(中川会長)

募集期間とプランの公表を同時にするのではなく、予告と募集期間を別にして考える時間を与えるということですね。プランを咀嚼して、関連情報を手に入れるのに時間がかかるということですね。

(津田G長)

条例が4月から施行され、パブリックコメントの募集をする前とした後で、所管事務ということで議会に分野別に委員会を設けているのですが、その委員会において事前と事後の報告をしていこうとすると、スケジュールがとりにくく、時間がかかるのですが、とにかくちゃんとパブリックコメントをやっていこうという前提で作業をしています。この辺が過密なスケジュールになってしまっているのが現状です。ただ、これでいいというわけではなく今後検討を要する課題になると思います。パブリックコメントの説明をするときはできるだけスケジュールを考慮して行ってくださいと言っていますが、こうした事例が出てしまうと対応しないといけません。

(中川会長)

それは西宮市参画と協働の推進に関する条例第6条の運用の細部にあたる問題ですよ。パブリックコメントの期間は少なくとも30日で条例違反ではないですが、血が通っていないということでしょうか。

(黒木副会長)

パブリックコメントの期間を延ばすよう頼んでみたのですが「それはできません、いったん決まったものは変更できません」と言われました。

(中川会長)

今の話はルールを整備していかないといけませんね。

やはり研修が必要ではないでしょうか。パブリックコメントは条例に基づいて行われる制度

で、単なる情報公開制度でなく参画制度です。いただいた意見を受け止め、適正なご指摘をいただいたのでこう改めましたということになってはじめてパブリックコメントの意味があるわけですね。ただいまの事例は、職員研修での貴重な事例をいただいたということにしましょう。

(能島委員)

1万5千件ですか。

(中川会長)

ものすごい数ですね。

(黒木副会長)

プランの内容について、「プランはこう書いているけど、どういうことですか」、「これはどういうことですか」というように質問をたくさんする意見がありました。パブリックコメントをする以前に説明会をして、市民の理解を得られていたらそこまでなかったかもしれないです。

(能島委員)

西宮市の人口は約50万人弱ですよ。それで、今回のパブリックコメントは1万5千人ですよ。

(中川会長)

異常に多い数字ですね。

(黒木副会長)

廃園予定幼稚園PTAが中心となって「幼稚園を守る会」を作り、守る会のお母さんたちが自治会や青愛協にコメントをするようお願いをしていったのです。だから、PTAやこれから子どもを入园させるといってお母さんたちが危機感を抱かれて、地域の中の幼稚園の存続を、ということで行動されたのです。

(中川会長)

はい、わかりました。

15000人からコメントが出ても、行政はあわてないでよいと思います。同じような意見をグループ핑してまとめて答えればよいと思います。

行政に住民の意見をいかに反映させるかが必要です。多くの自治体で良い意見を使って案を修正していますよ。例えば宝塚は修正率は3割ほどあります。1回宝塚に聞いてみてはどうですか。

傾向としては、パブリックコメントをやればやるほど次第に意見を言う市民の数は少なくなり、行政への信頼が大きくなります。宝塚の場合も、確か高等学校の問題で意見がとても多く

出たときはあります。教育はみんな反応が早いのです。ご参考までに。

にしのみやまちづくりフォーラムは、できれば皆さんお誘い合わせの上お越しいただければうれしいです。これをもちまして終わらせていただきますが、何か事務連絡があれば。

5. 事務連絡

(津田G長)

3回目は2月中旬に行う予定です。この時期に平成22年度の参画と協働の取組予定などが出てくるのでこの時期に考えています。また日程調整については事務局から通知させていただきます。

先程の取組み予定にありましたが今月31日に、にしのみやまちづくりフォーラムを開催します。皆さんお誘い合わせの上、お越しく下さい。

6. 閉会

(中川会長)

今日はありがとうございました。冒頭30分遅れることをご快諾いただきありがとうございます。おつかれさまでした。